

2024.8.11(日) 礼拝後 (予定:礼拝後~12:40/於ホール)

## 平和集会 <映画鑑賞 / 無料>

### 記録映画 『生きていてよかった』

第1部/死ぬことは苦しい 第2部/生きる人も苦しい 第3部/でも生きていてよかった

●1956年 原水爆禁止日本協議会製作・日本ドキュメント・フィルム社作品  
●監督: 亀井文夫 (1908-1987)



原爆により破壊され、焼け跡から頭部だけが発見された旧浦上天主堂のマリア像。

### 8月や6日9日15日

1945年8月6日広島、8月9日長崎への原爆投下、そして8月15日の敗戦—この3つの出来事を詠んだこの句を、この日、再度心に留めましょう。

現在、核兵器保有国は、アメリカ・ロシア・中国・フランス・イギリス・インド・パキスタン・イスラエル・北朝鮮などです。これらの国の為政者が、血迷って、核のボタンに手をかけてしまったら世界はどうなってしまうでしょう！ そのような核兵器の悲劇は、絶対に絶対に繰り返してはなりません。

日本は唯一の被爆国です。この映画は70年近く時を隔ててはいますが、当時被災した人々の過酷な生活状況を克明に描写した記録映画です。今まさに「核戦争」へ突入せんとする危機にあるこの時代です。状況は逼迫しています。この時期にこそ鑑賞し、心新たに平和への思いをさらに熱くしたいと思います。



#### ●亀井文夫(1908-1987) :

福島生まれ。ソビエトで見た映画に感動して映画を学び始め、記録映画を制作。戦後は独立プロを立ち上げて、生涯、戦争や核問題、差別、経済成長による社会の歪みなどを取り上げ、数々のシリアスな記録映画を制作。

今回の記録映画のほか、さらに1957年に制作したシリアスなドキュメンタリー映画『世界は恐怖する—「死の灰」の正体—』があります。この映画は、監督が我が国の大学や研究所の科学者たちの協力を得て制作したもので、目を覆いたくなるような凄惨な実態、原爆の恐ろしさを、これでもかこれでもかとリアルに追究した作品です。